

◇◆ 悪魔の花園～～行政指導 ◆◇

第二次世界大戦、トブルク戦線でドイツ人の生真面目さで、作られた地雷原、「悪魔の花園」。

地雷の下には必ずもう一つの地雷、なお、地雷の下の地雷は、トラップワイヤーで繋げてあったり、上の地雷の重さで押さえてあって、上の地雷を持ちあげると下の地雷が爆発する。

歩兵が戦車に追いかけて通ると其処には対戦車地雷原で戦車が逝くというようなものも金属探知機に反応しない、木製、陶磁器製の地雷、トラップワイヤーを延ばして、そのワイヤーに触れると1m～2m跳ね上がって爆発して鋼球をばら撒く。

置いてある人形、飲料水ジェリ缶、放置した車両は全てブービートラップ、触るとそこには爆薬が。地雷を避けて動く対戦車砲と機関銃の餌食。入り込んだら最後、自分が通った足跡しか信じて動けない。

まじめに、そこまで残酷な方法を考えることに怖さを感じます。

さて、地雷というのは極めて残虐な兵器といわれます。命は奪わず、隻脚のひとが数多往来を行けば、その恐怖は倍増します。恐れるが故の萎縮(診療)、それがたとえ無辜の民であったとしても。

砂漠の地雷、埋めるのも簡単なら、掘り出すのも簡単。

最後は、何処の国で作られた地雷か、それでも地雷は、引っかかった人に爆発する。

どうでしょう、地雷になるとは知らず、その部品を拵えているのは私達でしょうか。地雷と分かって作り続けているなら、異議を申し立てても良さそうなものです。

昨今の往来(診療報酬改定)で、本来歩行可能な道(請求できる項目)に対する地雷原による通行規制(細かな縛り)、埋め込みの地雷(改定項目に出していないのに、請求書の記載要綱の片隅にそっと書かれている)、地雷再敷設(明確な指針を出さないで恣意的な指導で引っ掛ける)、地雷のスマート信管(通常の診療行為と思われたものが、ある日突然規制の対象となる)。

昔の偉人は、「支配する者たちにとって傲慢はつきものである」と言いました。そして「人は一年の任官によってさえ傲慢になる」とも。

さて、烈しい日の照る夏が過ぎ、冷たい霜の降りる秋になれば・・・

